



# 機能、テンプレート、サービス、およびユーザ

---

Cisco Unified IP Phone をネットワークに設置し、ネットワーク設定値を設定して、Cisco Unified Communications Manager に追加した後は、Cisco Unified CM の管理を使用して、通信機能を設定する必要があります。必要に応じて、電話テンプレートの修正、サービスのセットアップ、ユーザの割り当ても行います。

この章では、これらの設定およびセットアップについて、手順の概要を示します。これらの手順の詳細については、Cisco Unified Communications Manager のマニュアルを参照してください。

機能に関する情報をユーザに提供する方法、および提供する内容に関する推奨事項については、[社内のサポート Web サイト](#) を参照してください。

英語以外の環境に電話機を設定する方法については、[各言語ユーザのサポート](#) を参照してください。

この章は、次の項で構成されています。

- [Cisco Unified IP Phone で使用可能なテレフォニー機能, 2 ページ](#)
- [プロダクト固有のパラメータ, 30 ページ](#)
- [社内ディレクトリとパーソナルディレクトリのセットアップ, 31 ページ](#)
- [電話ボタンテンプレート, 33 ページ](#)
- [ソフトキーテンプレート, 35 ページ](#)
- [デバイスから呼び出された録音を有効化, 36 ページ](#)
- [サービスのセットアップ, 36 ページ](#)
- [Cisco Unified Communications Manager ユーザの追加, 37 ページ](#)
- [ユーザ オプション Web ページの管理, 38 ページ](#)
- [Cisco Unified IP Phone での EnergyWise のセットアップ, 41 ページ](#)
- [UCR 2008 のセットアップ, 46 ページ](#)

## Cisco Unified IP Phone で使用可能なテレフォニー機能

Cisco Unified IP Phone を Cisco Unified Communications Manager に追加した後、電話機に機能を追加できます。次の表に、サポートされているテレフォニー機能を示します。これらの多くは、Cisco Unified CM の管理を使用して設定します。設定に関する参照先の欄は、設定手順や関連情報が記載されている Cisco Unified Communications Manager のマニュアルを示しています。

電話機でこれらの機能の多くを使用する方法については、『Cisco Unified IP Phone 7906G and 7911G User Guide for Cisco Unified Communications Manager (SCCP and SIP)』を参照してください。



- (注) Cisco Unified CM の管理には、各種のテレフォニー機能を設定するためのサービスパラメータもあります。サービスパラメータへのアクセスと設定方法については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』を参照してください。サービスの機能の詳細については、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウでパラメータ名をクリックするか、ヘルプボタン [?] をクリックします。

表 1: Cisco Unified IP Phone のテレフォニー機能

機能	説明	設定の参照先
短縮ダイヤル機能	<p>ユーザは、最大 99 のスピードダイヤルエントリを設定できます。電話機のスピードダイヤルボタンに割り当てられていないスピードダイヤルエントリは、短縮ダイヤルに使用されます。ユーザが番号のダイヤルを開始すると、[短縮 (AbbrDial)] ソフトキーが表示され、ユーザは、適切なインデックスを入力することで、任意のスピードダイヤルエントリにアクセスできます。</p> <p>(注) 短縮ダイヤル機能は、オンフックでもオフフックでも使用できます。</p>	<p>詳細については、次を参照してください</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」の章</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phones」の章</li> </ul>
参加のための選択機能を追加	<p>単一の回線上的複数の既存のコールを結合して、会議を作成します。</p>	<p>詳細については、『Cisco Unified IP Phone 7906G and 7911G User Guide for Cisco Unified Communications Manager』を参照してください。</p>

機能	説明	設定の参照先
エージェント グリーティング	<p>エージェントまたは管理者が事前録音したグリーティングを作成したり再生したりできるようにします。このグリーティングは、エージェントが発信者と話し始める前に、顧客コールなどのコールの開始時に自動的に再生されます。エージェントは、必要に応じて1つまたは複数のグリーティングを事前録音し、グリーティングを作成および更新できます。</p> <p>顧客が電話をかけると、両方の発信者に事前録音されたグリーティングが再生されます。エージェントは、グリーティングが終わるまで待つこともできますし、グリーティングの途中で応答することもできます。</p> <p>エージェント グリーティング コールでは、電話機でサポートされるすべてのコーデックがサポートされません。</p>	<p>詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Barge and Privacy」の章</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phones」の章</li> </ul> <p>Cisco Unified CM の管理アプリケーションでエージェント グリーティングを有効にするには、[デバイス (Device)] &gt; [電話 (Phone)] を選択し、設定する IP Phone を指定します。[デバイス情報レイアウト (Device Information Layout)] ペインまでスクロールし、[ビルトインブリッジ (Built In Bridge)] を [オン (On)] または [デフォルト (Default)] に設定します。</p> <p>[ビルトインブリッジ (Built In Bridge)] を [デフォルト (Default)] に設定した場合は、Cisco Unified CM の管理アプリケーションで [システム (System)] &gt; [サービスパラメータ (Service Parameter)] を選択し、適切なサーバとサービスを選択します。[クラスタ全体にわたるパラメータ (デバイス - 電話機) (Clusterwide Parameters (Device - Phone))] ペインまでスクロールし、[ビルトインブリッジ有効 (Builtin Bridge Enable)] を [オン (On)] に設定します。</p>
任意のコール ピックアップ	<p>CTI アプリケーションでリダイレクトされたコールを、ユーザがピックアップできます。コールが電話機にどのようにルートされたかには関係なく、コールピックアップグループの任意の回線でピックアップできます。</p>	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Call Pickup」の章を参照してください。</p>

機能	説明	設定の参照先
オーディオメッセージ受信インジケータ	<p>ハンドセット、ヘッドセット、またはスピーカーフォンから聞こえるスタッター音により、ユーザが回線で新しいボイスメッセージを1つ以上受信したことが示されます。</p> <p>(注) スタッター音は回線によって異なります。この音が聞こえるのは、使用中の回線でメッセージを受信した場合のみです。</p>	<p>詳細については、次を参照してください</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Message Waiting Configuration」の章</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Voice Mail Connectivity to Cisco Unified Communications Manager」の章</li> </ul>
自動応答	<p>着信コールを受信すると、スピーカーフォンを自動的にオフフックにします。ユーザは、スピーカーを使用してコールをモニタできますが、発信者と会話するにはハンドセットを持ち上げる必要があります。</p>	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Configuring Directory Numbers」の章を参照してください。</p>
自動ダイヤル	<p>電話機のユーザがダイヤルするときに、発信履歴から該当する番号を選択できます。コールを発信するには、ユーザは自動ダイヤルリストから番号を選択するか、引き続き手動で番号を入力することができます。</p>	

機能	説明	設定の参照先
自動ポート同期	<p>Cisco Unified CM 管理者がリモートポート設定機能を使用して IP Phone の速度とデュプレックス機能をリモートで設定した場合、一方のポートの速度が他方のポートよりも遅くなると、パケットの損失が生じることがあります。</p> <p>自動ポート同期機能を使用すれば、2つのポートは最も低い速度に同期されるので、パケット損失が解消されます。自動ポート同期が有効な場合、シスコでは、両方のポートを自動ネゴシエーションに設定することを推奨します。一方のポートで自動ネゴシエーションを有効にし、他方のポートの速度を固定にすると、電話機は固定されたポートの速度に同期されます。</p> <p>(注) 両方のポートを固定速度に設定すると、自動ポート同期機能は無効になります。</p> <p>(注) リモートポート設定と自動ポート同期の機能を使用できるのは、IEEE 802.3AF Power of Ethernet (PoE) スイッチだけです。シスコインラインパワーのみをサポートするスイッチとは互換性がありません。このタイプのスイッチに接続されている電話機でこの機能を有効にして、PoEで電話機に電源を供給した場合、Cisco Unified CM との接続が失われる可能性があります。</p> <p>(注) Cisco Unified IP Phone 7906G では自動ポート同期をサポートしていません。</p>	<p>Cisco Unified CM の管理アプリケーションでパラメータを設定するには、[デバイス (Device)] &gt; [電話 (Phone)] を選択し、適切な IP Phone を選択して、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] ペインまでスクロールします。</p> <p>複数の電話機の設定を同時に行うには、[エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ([システム (System)] &gt; [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)]) で [自動ポート同期 (Automatic Port Synchronization)] を有効にします。</p>
割り込み (およびC割り込み)	<p>ユーザは、共有回線で進行中のコールに参加できません。割り込みでは、次の2つの会議モードがサポートされています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ターゲットデバイス (割り込み先の電話機) での組み込みの Conference Bridge。このモードでは、[割り込み (Barge)] ソフトキーが使用されます。</li> <li>• 共有された Conference Bridge。このモードでは、[C 割込 (cBarge)] ソフトキーが使用されます。</li> </ul>	<p>詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」の章</li> <li>• 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phones」の章</li> <li>• 『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Barge and Privacy」の章</li> </ul>

機能	説明	設定の参照先
外線から外線への転送のブロック	外線コールをユーザが別の外線コールに転送することを禁止します。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i> 』の「External Call Transfer Restrictions」の章を参照してください。
コール監視人	<p>認証された監視人ユーザがコールを管理および録音できるようにします。</p> <p>コール監視人ユーザは、発信者からのコールを代行受信および応答し、着信者に対して会議を手動で作成し、そのまま会議に参加してコールを管理および録音します。コール監視人機能が設定された Cisco Unified IP Phone には、[録音 (Record)] ソフトキーがあります。コール監視人ユーザは、[録音 (Record)] ソフトキーを押してコールを録音します。</p> <p>監視されたコールでは、コールの開始時にアナウンスが再生されるか、参加者の1人がアナウンスします。アナウンスにより、コールに後から参加した人にコールが録音されていることが通知されます。</p> <p>コール監視人機能は、外部コール制御だけでサポートされます。この外部コール制御により、Cisco Unified Communications Manager で音声およびビデオを使用したコールを、ルーティング規則をホストするルートサーバにルーティングできます。</p>	
コール表示の制限	発信回線および接続回線について表示する情報を、コールに関係する通話相手に応じて決定します。	<p>詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 『<i>Cisco Unified Communications Manager Administration Guide</i>』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」の章</li> <li>• 『<i>Cisco Unified Communications Manager System Guide</i>』の「Understanding Route Plans」の章</li> <li>• 『<i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i>』の「Call Display Restrictions」の章</li> </ul>

機能	説明	設定の参照先
コール転送	ユーザが着信コールを別の番号にリダイレクトできるようにします。コール転送オプションには、すべてのコールの転送、話中転送、無応答時転送、およびカバレッジなし時転送があります。	<p>詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Directory Number Configuration」の章</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phones」の章</li> </ul>
不在転送ループのブレイクアウト	不在転送ループを検出して防止します。ループが検出されると、[すべてのコールの転送 (Call Forward All)] の設定が無視されて呼出音が鳴ります。	詳細については、『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phones」の章を参照してください。
不在転送ループの防止	ユーザが [すべてのコールの転送 (Call Forward All)] の接続先を電話機で直接設定する際に、不在転送ループが生じたり、既存の [最大ホップ カウントの転送 (Forward Maximum Hop Count)] サービス パラメータに定められたホップ数の上限を超える転送チェーンが生じたりしないようにします。	詳細については、『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phones」の章を参照してください。
不在転送の接続先	管理者は、すべてのコールの転送 (CFA) の接続先が CFA の転送元にコールを発信する場合には CFA を無効にすることができます。この機能により、CFA の接続先は、重要なコールがある場合に CFA の転送元に到達できるようになります。この無効化は、CFA の接続先の電話番号が内部か外部かに関係なく動作します。	詳細については、『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Understanding Directory Numbers」の章を参照してください。
コール パーク	<p>コールを保留にして、Cisco Unified Communications Manager システムに接続しているユーザがそのコールに応答できるようにします。</p> <p>(注) [パーク (Park)] ソフトキーを使用している場合は、ダイレクトコールパーク機能を設定しないでください。これは、ユーザが2つのコールパーク機能を混同するのを防ぐためです。</p>	<p>詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phones」の章</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Call Park and Directed Call Park」の章</li> </ul>

機能	説明	設定の参照先
コール ピックアップ	<p>ユーザは、自分のピックアップグループに属する別の電話機で呼出音が鳴っている場合に、そのコールを自分の電話機にリダイレクトできます。</p> <p>電話機のプライマリ回線に、音声によるアラートまたは画面表示によるアラートを設定できます。このアラートによって、ピックアップグループ内でコールの呼び出しがあることが通知されます。</p>	<p>詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i>』の「Call Pickup Configuration」の章を参照してください。</p>
コール録音	<p>アクティブ コールの録音を有効にします。コールが記録されている場合、コール中に記録音声アラート トーンがユーザに聞こえることがあります。</p> <p>コールがセキュアな場合、そのコールのセキュリティステータスが Cisco Unified IP Phone に鍵のアイコンとして表示されます。コールがセキュアであり、記録されていることを示す音声アラート トーンは、接続先の通話者にも聞こえることがあります。</p> <p>(注) アクティブ コールがモニタまたは記録されている場合、インターコム コールの受信または発信は可能ですが、インターコム コールを発信するとアクティブ コールが保留になります。これにより、録音セッションは終了し、モニタリングセッションは一時停止されます。モニタリングセッションを再開するには、コールをモニタされている通話者がコールを再開する必要があります。</p>	<p>詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i>』の「Monitoring and Recording」の章を参照してください。</p>
コール待機	<p>最初のコールを切断せずに、同じ回線上の2番めの着信コールを受信します。</p>	<p>詳細については、『<i>Cisco Unified Communications System Guide</i>』の「Understanding Directory Numbers」の章を参照してください。</p>



機能	説明	設定の参照先
発信者 ID	発信者の電話番号および名前を表示します。	<p>詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Directory Number Configuration」の章</li> <li>• 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Understanding Route Plans」の章</li> <li>• 『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Call Display Restrictions」の章</li> </ul>
発信者 ID ブロック	ユーザの電話番号または電子メールアドレスをブロックします。	<p>詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Understanding Route Plans」の章</li> <li>• 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Directory Number Configuration」の章</li> <li>• 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「SIP Profile Configuration」の章</li> </ul>
発信側の正規化	着信コールの発信者番号をグローバル化またはローカライズして、適切な電話番号を電話機に表示します。国際エスケープ文字であるプラス (+) をサポートしています。	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Features and Services Guide』の「Calling Party Normalization」の章を参照してください。</p>

機能	説明	設定の参照先
Cisco コールバック	ユーザは、着信側が通話可能になった場合に、Cisco Unified IP Phone でコールバック通知を受け取ることができます。	詳細については、以下を参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」の章</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Cisco Call Back」の章</li> </ul>
Cisco Extension Mobility	ユーザは、任意の Cisco Unified IP Phone から自分の電話番号にサインインできます。	詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Cisco Extension Mobility」の章を参照してください。
Cisco Extension Mobility の PIN 変更	Cisco Unified IP Phone からユーザが PIN を変更できます。PIN は次のようにして変更できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Cisco Unified IP Phone の資格情報の変更サービスを使用する。</li> <li>エクステンション モビリティのログアウト画面の [PIN 変更 (ChangePIN) ] ソフトキーを使用する。</li> </ul>	詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Cisco Extension Mobility」の章を参照してください。
Cisco Extension Mobility Cross Cluster	特定のクラスタで設定されたユーザが、別のクラスタにある Cisco Unified IP Phone にログインできます。ユーザはホーム クラスタから、訪問先クラスタにある Cisco Unified IP Phone にログインします。  (注) インターコム機能は Cisco Extension Mobility (EM) で機能しますが、クラスタ間のエクステンション モビリティ (EMCC) では使用できません。これは、インターコム機能は実際の電話デバイスで有効にする必要があるためです。インターコム機能は、EM プロファイルでは有効にすることができません。	詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Cisco Extension Mobility Cross Cluster」の章を参照してください。

機能	説明	設定の参照先
クライアント識別コード (CMC) (SCCP 電話のみ)	<p>コールが特定のクライアントに関連するように指定できます。</p> <p>(注) この機能を使用する場合は、一括ダイヤルを無効にする必要があります。詳細については、この表の「一括ダイヤル」を参照してください。</p>	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Client Matter Codes and Forced Authorization Codes」の章を参照してください。</p>
会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザは、各参加者を個別に呼び出して、複数の通話相手と同時に話すことができます。会議機能には、会議、参加、C割り込み、およびミーティングがあります。</li> <li>標準 (アドホック) 会議では、開催者以外でも参加者を追加または削除できます。また、どの会議参加者でも同じ回線上の2つの標準会議を結合できます。</li> </ul>	<p>詳細については、次を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phones」および「Conference Bridges」の章</li> <li>これらの機能を有効にするには、Advance Adhoc Conference サービスパラメータ (Cisco Unified CM の管理ではデフォルトで無効になっています) を使用します。</li> </ul> <p>(注) ユーザに対し、これらの機能がアクティブであるかどうかを必ず通知してください。</p>
コンピュータテレフォニーインテグレーション (CTI) アプリケーション	<p>Computer Telephony Integration (CTI) ルートポイントでは、仮想デバイスを指定して、アプリケーションが宛先変更を制御している多重同時コールを受信することができます。</p>	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「CTI Route Point Configuration」の章を参照してください。</p>
デバイスから呼び出された録音	<p>エンドユーザがソフトキーを使用して電話コールを録音できる機能を提供します。</p> <p>また、管理者は CTI ユーザ インターフェイスを使用して電話コールの録音を継続できます。</p>	<p>詳細については、<a href="#">デバイスから呼び出された録音を有効化 (36 ページ)</a> を参照してください</p>
ダイレクトコールパーク	<p>ユーザは、使用可能なダイレクトコールパーク番号にアクティブなコールを転送できます。ユーザは、転送を押してから、ダイレクトコールパーク番号にダイヤルしてそのコールを保存します。</p>	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Call Park and Directed Call Park」の章を参照してください。</p>
ダイレクトコールピックアップ	<p>ユーザが、特定の電話番号で呼び出し音が鳴っているコールに応答することができます。</p>	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Call Pickup」の章を参照してください。</p>

機能	説明	設定の参照先
直接転送	確立された2つのコールを1つのコールとして接続し（コールは保留状態または接続状態）、機能を開始したユーザはコールから離脱します。打診コールが開始されたり、アクティブなコールが保留になったりすることはありません。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager System Guide</i> 』の「Cisco Unified IP Phones」の章を参照してください。
一括ダイヤル (SCCP 電話のみ)	一括ダイヤルを使用すると、SCCP で電話番号のすべてのディジットを同時に送信できます。Forced Authorization Code (FAC; 強制承認コード) またはクライアント識別コード (CMC) のいずれかのダイヤルが使用されている場合は、この機能を無効にする必要があります。	<a href="#">一括ダイヤル機能のセットアップ</a> , (28 ページ)
固有呼び出し音	ユーザは、着信コールや新しいボイスメッセージを電話機で示す方法をカスタマイズできます。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i> 』の「Custom Phone Rings」の章を参照してください。

機能	説明	設定の参照先
Do Not Disturb (DND) (サイレント)	<p>DND をオンにすると、コールが呼び出し状態になっても呼出音が鳴らなくなります。またあらゆる種類の表示や音による通知も、一切行われません。</p> <p>電話機の設定でソフトキーテンプレートに [サイレント (DND)] ソフトキーを含めることができます。</p> <p>Cisco Unified CM の管理では、次の DND 関連のパラメータを設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [サイレント (Do Not Disturb)] : このチェックボックスを使用すると、DND を電話機ごとに有効にすることができます。[デバイス (Device)] &gt; [電話 (Phone)] &gt; [電話の設定 (Phone Configuration)] を選択します。</li> <li>• [DND オプション (DND Option)] : [コール拒否 (Call Reject)] (音声および表示による通知をオフにする) または [呼出音オフ (Ringer Off)] (呼出音だけをオフにする) を選択します。[DND オプション (DND Option)] は、[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウおよび [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの両方に表示されます ([電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが優先されます)。</li> <li>• [DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] : 電話機で DND がアクティブのときに着信コールに対して発生させるアラート (存在する場合) のタイプを選択します。このパラメータは、[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウおよび [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの両方にあります ([電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの値が優先されます)。</li> </ul>	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Do Not Disturb」の章を参照してください。</p>
EnergyWise	<p>EnergyWise は Power Save Plus とも呼ばれます。ネットワークに EnergyWise コントローラが含まれている場合、それらの電話機をスケジュールに従ってスリープ状態 (電源オフ) にしたり、復帰 (電源オン) させたりして、電力消費を削減できます。</p>	<p>詳細については、<a href="#">電話機の消費電力</a> を参照してください</p>

機能	説明	設定の参照先
ファストダイヤルサービス	ユーザは、ファストダイヤルコードを入力してコールを発信できます。ファストダイヤルコードは、電話番号または [個人アドレス帳 (Personal Address Book) ] エントリに割り当てることができます。この表の「サービス」を参照してください。	詳細については、 <a href="#">個人アドレス帳またはファストダイヤルの電話ボタンテンプレート、(33 ページ)</a> を参照してください
強制承認コード (FAC) (SCCP 電話のみ)	特定のユーザが発信できるコールのタイプを制御します。  (注) この機能を使用する場合は、一括ダイヤルを無効にする必要があります。詳細については、この表の「一括ダイヤル」を参照してください。	詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Client Matter Codes and Forced Authorization Codes」の章を参照してください。
グループのコールピックアップ	ユーザが、別のグループの電話番号で呼び出し音が鳴っているコールに応答することができます。	詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Call Pickup」の章を参照してください。
ヘルプ システム	電話機の画面に広範囲にわたるトピックを表示します。	設定は必要ありません。
保留/復帰	接続されたコールのアクティブ状態と保留状態を切り替えることができます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>設定は必要ありません。ただし、保留音を使用する場合には必要です。詳細については、この表の「保留音」を参照してください。</li> <li>この表の「保留復帰」を参照してください。</li> </ul>
保留復帰	<p>コールの保留時間を制限します。制限時間が経過すると、コールは保留にした側の電話機に復帰し、ユーザにアラートが通知されます。</p> <p>復帰コールの通知は、着信コールの場合とは異なり、1回の呼出音（回線の新規コールインジケータの設定によってはブープ音）によって行われます。この通知は、コールが再開されるまで、一定の間隔で繰り返されます。</p> <p>また、コールが保留復帰した場合は、コールバブルにアニメーションのアイコン、ステータス行に短いメッセージが表示されます。</p> <p>コールのフォーカス優先度を着信コールまたは復帰コールのどちらかに設定できます。</p>	この機能の設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Hold Reversion」の章を参照してください。

機能	説明	設定の参照先
保留状態	共有回線を持つ電話機では、ローカル回線とリモート回線のいずれがコールを保留したのかを区別できません。	設定は必要ありません。
ハントグループ表示	<p>主要な電話番号へのコールに対して、ロードシェアリングを行います。ハントグループには、着信コールに応答できる一連の電話番号が含まれています。</p> <p>ハントグループに含まれる電話番号に着信コールがあると、この機能によって、発信側の他に主要な電話番号が表示されます。</p>	<p>詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「<a href="#">Hunt Group Configuration</a>」の章</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「<a href="#">Understanding Route Plans</a>」の章</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「<a href="#">CTI Route Point Configuration</a>」の章</li> </ul>
即時転送	ユーザは、呼び出し中のコール、接続されたコール、または保留中のコールを、ボイスメッセージシステムに直接転送できます。コールを転送した場合、その回線は新しいコールの発信または受信に使用できるようになります。	詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「 <a href="#">Immediate Divert</a> 」の章を参照してください。
即時転送の拡張	ユーザが、自分のボイスメッセージングシステムまたは元の着信側のボイスメッセージングシステムに着信コールを直接転送できます。	詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「 <a href="#">Immediate Divert</a> 」の章を参照してください。
インテリジェントセッションコントロール	ユーザの携帯電話へのダイレクトコールを会社の電話番号（デスクフォン）に再ルーティングします。リモート接続先（携帯電話）への着信コールでは、リモート接続先でのみ呼出音が鳴り、デスクトップフォンの呼出音は鳴りません。携帯電話でコールに応答すると、デスクフォンに「リモートで使用中（Remote In Use）」というメッセージが表示されます。これらのコール中、ユーザは自身の携帯電話のさまざまな機能を使用できます。	詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「 <a href="#">Cisco Unified Mobility</a> 」の章を参照してください。

機能	説明	設定の参照先
参加	<p>ユーザは、[参加 (Join)] ソフトキーを使用してアドホック会議を開始できます。</p> <p>参加では、打診コールが作成されたり、アクティブなコールが保留になったりすることはありません。参加では、3 つ以上のコールを含めることができるので、1 つのコールに 4 人以上を参加させることも可能です。</p>	<p>詳細については、 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phones」の章を参照してください。</p>
ハントグループからのログアウト	<p>ユーザは、コールを受けることができない場合に、ハントグループからログアウトし、一時的にユーザの電話機で呼出音が鳴らないようにすることができます。ハントグループからログアウトしても、ハントグループ以外のコールでは、引き続き電話機で呼出音が鳴ります。</p>	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Understanding Route Plans」の章を参照してください。</p>
迷惑呼 ID (MCID)	<p>ネットワークでの着信コールの送信元を識別および登録するよう Cisco Unified Communications Manager に要求することで、悪意のあるコールについて報告できます。</p>	<p>詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phones」の章</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Malicious Call Identification」の章</li> </ul>
ミーティング	<p>他の発信者を会議に参加できるようにします。</p>	<p>詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Meet-Me Number/Pattern Configuration」の章</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Conference Bridges」の章</li> </ul>



機能	説明	設定の参照先
メッセージ受信	ユーザへの1つ以上のメッセージを受信していることを示します。	<p>詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Message Waiting Configuration」の章</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Voice Mail Connectivity to Cisco Unified Communications Manager」の章</li> </ul>
不在履歴のログ	ユーザが、特定のラインアピランスで不在履歴を不在履歴ディレクトリに記録するかどうかを指定できるようにします。	詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Directory Number Configuration」の章を参照してください。
モバイル コネクト	ユーザが、1つの電話番号を使用してビジネスコールを管理し、現在アクティブなコールを固定電話および携帯電話でピックアップできるようにします。 また、電話番号や時刻に応じて、発信者グループを制限できます。	詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Cisco Unified Mobility」の章を参照してください。
モバイル ボイス アクセス	モバイルコネクト機能が拡張され、ユーザはInteractive Voice Response (IVR; 自動音声応答) システムにアクセスして、携帯電話などのリモートデバイスからコールを発信できるようになります。	詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Cisco Unified Mobility」の章を参照してください。
Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) (SCCP 電話のみ)	電話システムでコールの優先順位を付けることができます。この機能は、ユーザが緊急コールや重要なコールを発信または受信する必要がある環境で作業している場合に使用します。	詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Multilevel Precedence and Preemption」の章を参照してください。
ラインアピランス1つあたりのコール数	各回線は複数のコールに対応できます。ある時点では1コールだけがアクティブになることができ、他のコールは自動的に保留になります。	詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」の章を参照してください。
保留音	発信者が保留状態になっている間、音楽を再生しません。	詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Music On Hold」の章を参照してください。

機能	説明	設定の参照先
ミュート	<p>アクティブなハンドセットやヘッドセットにあるマイクロフォンをミュートします。</p> <p>ユーザは、[ミュート (Mute)] ソフトキーを使用して、オフフック、呼び出し中、または接続状態のアクティブなコールをミュートおよびミュート解除することもできます。</p> <p>[ミュート (Mute)] ソフトキーを電話機に表示するには、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco Unified Communications Manager 8.0 以降 : 次のウィンドウのいずれかの [ミュート機能を有効にする (Enable Mute Feature)] チェックボックスをオンにします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ [電話の設定 (Phone Configuration)] ([デバイス (Device)] &gt; [電話 (Phone)])</li> <li>◦ [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ([システム (System)] &gt; [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)])</li> <li>◦ [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ([デバイス (Device)] &gt; [デバイスの設定 (Device Settings)] &gt; [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)])</li> </ul> </li> <li>• 以前のバージョンの Cisco Unified Communications Manager : Cisco Unified CM の管理で、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [ミュート機能を有効にする (Enable Mute Feature)] チェックボックスをオンにします。</li> </ul>	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の次の章を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• “Enterprise Phone Configuration”</li> <li>• “Common Phone Profile Configuration”</li> </ul>
オンフック コール転送	<p>[転送 (Transfer)] ソフトキーを 1 回押してオンフックにするだけで、コールを転送できるようにします。</p>	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phones」の章を参照してください。</p>
オンフック プレダイヤル	<p>ユーザは、オフフックにすることなく、番号をダイヤルできます。番号をダイヤルした後は、ハンドセットを持ち上げるか、[ダイヤル (Dial)] ソフトキーを押します。</p>	<p>詳細については、『Cisco Unified IP Phone 7906G and 7911G User Guide for Cisco Unified Communications Manager (SCCP and SIP)』を参照してください。</p>

機能	説明	設定の参照先
他のグループのピックアップ	ユーザが、ユーザのグループに関連付けられている別のグループの電話機で呼出音が鳴っているコールに応答できます。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i> 』の「Call Pickup」の章を参照してください。
電話機のセキュア Web アクセス	Cisco Unified IP Phone では、ユーザが「電話の信頼性」と呼ばれる電話信頼ストアを使用して Web にセキュアにアクセスできるようになりました。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Security Guide</i> 』の「Phone Security Overview」の章を参照してください。
プラス ダイアル	ユーザは、先頭にプラス「+」記号を付けて E.164 番号をダイヤルできます。  +記号をダイヤルするには、「*」キーを 1 秒以上押し続ける必要があります。これは、オンフックかオフフックのコールに対してのみ、先頭桁をダイヤルするときに当てはまります。	設定は必要ありません。
Private Line Automated Ringdown (PLAR)	Cisco Unified Communications Manager の管理者は、ハンドセットをオフフックにすると Cisco Unified IP Phone がただちにダイヤルする電話番号を設定できます。この機能は、緊急連絡や「ホットライン」の番号にコールするための電話機を用意する場合に役立ちます。	詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Administration Guide</i> 』の「Configuring PLAR」および「Directory Number Configuration」の章を参照してください。
プライバシー	回線を共有しているユーザが、コールに自分を追加すること、および他のユーザのコールに関する情報を電話スクリーンに表示することを禁止します。	詳細については、以下を参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>『<i>Cisco Unified Communications Manager Administration Guide</i>』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」の章</li> <li>『<i>Cisco Unified Communications Manager System Guide</i>』の「Cisco Unified IP Phones」の章</li> <li>『<i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i>』の「Barge and Privacy」の章</li> </ul>

機能	説明	設定の参照先
プログラム可能な回線キー (PLK)	機能を回線ボタンに割り当てることができます。通常、ソフトキーは発信、コールバック、終了、不在転送などの機能を制御します。管理者がこれらの機能を回線ボタンに設定すると、これらの機能は常に表示され、ユーザは「ハード」機能として使用できます。たとえば、[発信 (New Call)] などのハードキーとして使用します。	<p>詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phones」の章</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Phone Button Template Configuration」の章</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Modifying Phone Button Templates」の章</li> </ul>
保護コール	2台の電話機の間セキュアな（暗号化された）接続を提供します。コールの開始時にはセキュリティトーンが再生され、両方の電話機が保護されていることを通知します。保護コールを設定すると、一部の機能（会議コール、共有回線、エクステンション モビリティ、回線をまたいで参加）は使用できません。保護されたコールは認証されません。	<p>セキュリティの詳細については、<a href="#">サポート対象のセキュリティ機能</a>を参照してください。</p> <p>その他の情報については、『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』を参照してください。</p>
品質 (QRT)	ユーザは、電話機の[品質 (QRT)]ソフトキーを使用して、問題のあるコールの情報を送信できます。QRTは、QRTに必要なユーザインタラクションの量に応じて、2つのユーザモードのどちらかに設定できます。	<p>詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phones」の章</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Quality Report Tool」の章</li> </ul>
リダイヤル	Cisco Unified IP Phone で最後にダイヤルした番号にリダイヤルします。	設定は必要ありません。

機能	説明	設定の参照先
リモートポート設定	<p>管理者は、Cisco Unified CM の管理ページを使用して、電話機のイーサネットポートの速度とデュプレックス機能をリモートで設定できます。これにより、具体的なポート設定を伴う大規模な導入のパフォーマンスが向上します。</p> <p>(注) Cisco Unified CM のリモートポート設定用にポートが設定されている場合は、電話機のデータを変更することはできません。</p>	<p>Cisco Unified CM の管理アプリケーションでパラメータを設定するには、[デバイス (Device)] &gt; [電話 (Phone)] の順に選択し、適切な IP Phone を選択して、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] ペインまでスクロールします ([スイッチポートのリモート設定 (Switch Port Remote Configuration)] または [PC ポートのリモート設定 (PC Port Remote Configuration)] )。</p> <p>複数の電話機の設定を同時に行うには、[エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ([システム (System)] &gt; [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ) で [リモートポート設定 (Remote Port Configuration)] を設定します。</p>
呼出音の設定	<p>電話機に別のアクティブコールが着信したときに、回線で使される呼出音タイプを指定します。</p>	<p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Directory Number Configuration」の章を参照してください。</p>

機能	説明	設定の参照先
呼び出し音の音量調節	<p>呼び出し音の音量制御機能を使用して呼び出し音の最低音量設定を制御し、最低音量レベルを調整できます。個々のユーザが呼び出し音の最低音量設定を変更することはできません。</p> <p>パラメータ [最小呼出音量 (Minimum Ring Volume) ] は、Cisco Unified CM の管理の [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration) ] ウィンドウにあります。</p> <p>音量ボタンのマイナス (-) 側を押すと、オンフック状態の呼び出し音の音量が下がりますが、音量は設定されている最低音量レベルまでしか下がりません。最低音量レベルに達すると、ステータスメッセージは表示されません。</p> <p>システムが再起動すると、呼び出し音の最低音量は設定ファイルから受信した呼び出し音の最低音量設定にリセットされます。前回の起動以降に新しい最低音量を設定すると、エンドユーザがそれ以前に呼び出し音の最低音量を低く設定していた場合、呼び出し音の音量は、ユーザの設定ではなく設定ファイルの最低値に設定されます。</p> <p>この機能は、通話中のハンドセット、スピーカー、およびヘッドセットの音量には適用されません。</p>	Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションでパラメータを設定するには、[デバイス (Device) ] > [電話 (Phone) ] を選択し、適切な IP Phone を選択して、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout) ] ペインまでスクロールします。
SIP の RTCP 保留	SIP の RTCP 保留機能によって、ゲートウェイで保留コールがドロップされなくなります。ゲートウェイでは RTCP ポートのステータスを確認して、コールがアクティブかどうかを判別されます。電話ポートを開いたままにしておくことによって、ゲートウェイは保留コールを終了しません。	設定は必要ありません。

機能	説明	設定の参照先
セキュアおよび非セキュアの通知トーン	<p>Cisco Unified CM で電話機をセキュア（暗号化および信頼された）として設定した場合、その電話機には保護ステータスを割り当てることができます。その後、必要に応じて、保護された電話機は、コールの初めに通知トーンを再生するように設定できます。</p> <p>保護された電話機だけで、セキュアまたは非セキュアなインディケーション トーンが再生されます。保護されていない電話機ではトーンは聞こえません</p> <p>コール中にコール全体のステータスが変化すると、それによって通知トーンも変化します。そのとき、保護された電話機は対応するトーンを再生します。</p> <p>保護された電話機は、次の状況でトーンを再生したり再生しなかったりします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [セキュア インディケーション トーンの再生 (Play Secure Indication Tone) ] オプションが有効 ([はい (True) ]) な場合： <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ エンドツーエンドのセキュアなメディアが確立され、コール ステータスがセキュアになった場合、電話機はセキュア インディケーション トーン（間に小休止を伴う 3 回の長いビープ音）を再生します。</li> <li>◦ エンドツーエンドの非セキュアなメディアが確立され、コール ステータスが非セキュアになった場合、電話機は、非セキュアのインディケーション トーンを再生します（間に小休止を伴う 6 回の短いビープ音）。</li> </ul> </li> <li>• [セキュア インディケーション トーンの再生 (Play Secure Indication Tone) ] オプションが無効になっている場合、トーンは再生されません。</li> </ul>	<p>セキュアおよび非セキュアの通知トーン：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [保護されたデバイス (Protected Device) ]：セキュアな電話機のステータスを保護に変更するには、[Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration) ] &gt; [デバイス (Device) ] &gt; [電話 (Phone) ] &gt; [電話の設定 (Phone Configuration) ] で [保護されたデバイス (Protected Device) ] チェックボックスをオンにします。</li> <li>• [セキュア インディケーション トーンの再生 (Play Secure Indication Tone) ]：保護された電話機で、セキュアまたは非セキュアな通知トーンの再生を有効にするには、[セキュア インディケーション トーンの再生 (Play Secure Indication Tone) ] を [はい (True) ] に設定します。（デフォルト設定は [いいえ (False) ] です）。<a href="#">セキュアおよび非セキュアの通知トーン機能のセットアップ</a>、<a href="#">(29 ページ)</a> を参照してください。</li> </ul>

機能	説明	設定の参照先
セキュア会議	<p>安全な電話機で、セキュリティ保護されている Conference Bridge を使用して会議コールを行うことができます。</p> <p>[会議 (Confm) ]、[参加 (Join) ]、[C 割り込み (cBarge) ]、[割り込み (Barge) ] の各ソフトキーまたはミートミー会議を使用して新しい参加者が追加されると、すべての参加者がセキュアな電話機を使用している間はセキュア コールアイコンが表示されません。</p> <p>会議の各参加者のセキュリティ レベルが [会議リスト (Conference List) ] に表示されます。開催者は、非セキュアの参加者を [会議参加者リスト (Conference List) ] から削除できます。AdvanceAdhocConference パラメータが設定されている場合は、開始者以外が会議参加者を追加または削除できます。</p>	<p>セキュリティの詳細については、<a href="#">サポート対象のセキュリティ機能</a>を参照してください。</p> <p>詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Conference Bridges」の章</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Conference Bridge Configuration」の章</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』</li> </ul>
サービス	<p>Cisco Unified CM の管理にある Cisco Unified IP Phone サービスの設定メニューを使用して、ユーザが登録できる IP Phone サービスのリストを定義して管理できます。</p>	<p>詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」の章</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phone Services」の章</li> </ul>
サービス URL ボタン	<p>情報サービスへワンタッチでアクセスできます。</p>	<p>設定手順の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』を参照してください。</p>



機能	説明	設定の参照先
セッションハンド オフ	<p>ユーザが、携帯電話からのコールを、同じ回線を共有する Cisco Unified デバイスに切り替えられます。共有回線上のすべてのデバイスのハンドセットが同時に点滅します。</p> <p>ユーザが Cisco Unified デバイスのいずれかでコールに応答した後、同じ回線を共有するその他の Cisco Unified デバイスに「リモートで使用中 (Remote in Use)」というメッセージが表示されます。ただし、携帯電話からコールを切り替えられなかった場合、携帯電話に「会話は移動できません」という意味のメッセージが表示されることがあります。</p>	<p>詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i>』の「Cisco Unified Mobility」および「Cisco Unified Mobility Advantage and Cisco Unified Mobile Communicator Integration」の章を参照してください。</p>
共有回線	<p>ユーザは、複数の電話機で同じ電話番号を共有したり、電話番号を同僚と共有したりできます。</p>	<p>詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager System Guide</i>』の「Understanding Directory Numbers」の章を参照してください。</p>
サイレント モニタ リング	<p>スーパーバイザは、アクティブ コールのサイレント モニタリングを実行できます。スーパーバイザの音声はコールのどちらの側にも聞こえません。コールがモニタされている場合、コール中にモニタリング音声アラート トーンがユーザに聞こえることがあります。</p> <p>コールがセキュアな場合、そのコールのセキュリティステータスが Cisco Unified IP Phone に鍵のアイコンとして表示されます。コールがセキュアであり、モニタリングされていることを示す音声アラート トーンは、接続先の通話者にも聞こえることがあります。</p> <p>(注) アクティブ コールがモニタまたは記録されている場合、インターコム コールの受信または発信は可能ですが、インターコム コールを発信するとアクティブ コールが保留になります。これにより、録音セッションは終了し、モニタリングセッションは一時停止されます。モニタリングセッションを再開するには、コールをモニタされている通話者がコールを再開する必要があります。</p>	<p>詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide</i>』の「Monitoring and Recording」の章を参照してください。</p>

機能	説明	設定の参照先
ワンボタン割り込み	ユーザは、回線キーを1回押すだけで、リモートで使用中のコールに割り込みまたはC割り込みできます。	<p>詳細については、次を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」の章</li> <li>• 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phones」の章</li> <li>• 『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Barge and Privacy」の章</li> </ul>
スピードダイヤル	記憶されている指定番号をダイヤルします。	<p>詳細については、次を参照してください</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Unified IP Phones Configuration」の章</li> <li>• 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phones Configuration」の章</li> </ul>
SSH アクセス	<p>Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションを使用して、SSH アクセス設定を有効または無効にできます。</p> <p>このオプションでは、電話機が SSH アクセスをサポートしているかどうかを示されます。</p> <p>次の設定があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 有効 (Enabled)</li> <li>• 無効 (Disabled) (デフォルト)</li> </ul> <p>有効な場合、電話機は SSH 接続を受け入れることができます。</p> <p>電話機の SSH サーバ機能を無効にすると、その電話機への SSH アクセスがブロックされます。</p>	<p><a href="#">SSH アクセス機能のセットアップ</a>、(29 ページ) を参照してください。</p> <p>[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile) ] ウィンドウ ([デバイス (Device) ] &gt; [デバイスの設定 (Device Settings) ] &gt; [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile) ]) でも同じパラメータを設定した場合、この設定の優先順位は次のようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 [電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウの設定値</li> <li>2 [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile) ] ウィンドウの設定値</li> </ol>

機能	説明	設定の参照先
Time-of-Day ルーティング	指定したテレフォニー機能へのアクセスを時間帯によって制限します。	<p>詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Time Period Configuration」の章</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Time-of-Day Routing」の章</li> </ul>
タイムゾーンの更新	タイムゾーンの変更に伴い、Cisco Unified IP Phone を更新します。	詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Date/Time Group Configuration」の章を参照してください。
UCR 2008	<p>SCCP を使用する IP Phone は、次の機能を提供することで、Unified Capabilities Requirements (UCR) 2008 をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 連邦情報処理標準 (FIPS) 104-2 のサポート</li> <li>• TVS IPv6 のサポート</li> <li>• 80 ビット SRTCP タギングのサポート</li> </ul> <p>これらの機能の一部のために、IP Phone の管理者は、Cisco Unified CM の管理で特定のパラメータをセットアップする必要があります。</p>	<p><a href="#">UCR 2008 のセットアップ, (46 ページ)</a> を参照してください。</p>
ボイス メッセージ システム	コールに応答がない場合に、発信者がボイスメッセージを残せるようにします。	<p>詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Voice-Mail Port Configuration」の章</li> <li>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Voice Mail Connectivity to Cisco Unified Communications Manager」の章</li> </ul>

機能	説明	設定の参照先
ビデオモード (7911Gのみ)	ユーザが、ビデオ会議を表示するためのビデオディスプレイモードを選択できます。これは、システムに設定されているモードによって異なります。	<p>詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Conference Bridge Configuration」の章</li> <li>• 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Understanding Video Telephony」の章</li> </ul>
ビデオサポート (7911Gのみ)	電話機でビデオをサポートできるようにします。	<p>詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Conference Bridge Configuration」の章</li> <li>• 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Understanding Video Telephony」の章</li> <li>• 『Cisco VT Advantage Administration Guide』の「Overview of Cisco VT Advantage」の章</li> </ul>

## 一括ダイヤル機能のセットアップ

一括ダイヤルを無効にするには、次の手順を実行します。

### 手順

- 
- ステップ 1 Cisco Unified CM の管理で、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] に移動します。
  - ステップ 2 [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 領域で、[一括ダイヤル (Enbloc Dialing)] チェックボックスをオフにします。
  - ステップ 3 [設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。
  - ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。
- 

## セキュアおよび非セキュアの通知トーン機能のセットアップ

このオプションは、[Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] > [システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)] で設定します。

### 手順

- 
- ステップ 1 サーバを選択してから、Unified Communications Manager サービスを選択します。
  - ステップ 2 [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、[機能 - セキュア トーン (Feature - Secure Tone)] 領域内にあるオプションを選択します。
- 

## SSH アクセス機能のセットアップ

Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションでパラメータを設定するには、次に手順を実行します。

### 手順

- 
- ステップ 1 [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
  - ステップ 2 適切な IP Phone を選択します。
  - ステップ 3 [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] ペインまでスクロールします。
  - ステップ 4 [SSH アクセス (SSH Access)] ドロップダウン リストボックスから [有効 (Enable)] を選択します。
-

## プロダクト固有のパラメータ

Cisco Unified CM の管理で、Cisco Unified IP Phone のプロダクト固有の設定パラメータを設定できます。次の表に、Cisco Unified CM の管理の設定ウィンドウおよびパスを示します。

表 2: *Cisco Unified IP Phone* の設定ウィンドウ

設定ウィンドウ	パス
[エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration) ] ウィンドウ	[システム (System) ]>[エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration) ]
[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile) ] ウィンドウ	[デバイス (Device) ]>[デバイスの設定 (Device Settings) ]>[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile) ]
[電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウ	[デバイス (Device) ]>[電話 (Phone) ]: ウィンドウの [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration) ] 領域

この 3 つの設定ウィンドウで、次のパラメータを設定できます。

- 設定アクセス (Settings Access)
- ビデオ機能 (Video Capabilities)
- Web アクセス (Web Access)
- ロード サーバ (Load Server)
- RTCP
- ピア ファームウェア共有 (Peer Firmware Sharing)
- Cisco Discovery Protocol (CDP) : スイッチ ポート (Cisco Discovery Protocol (CDP): Switch Port)
- Cisco Discovery Protocol (CDP) : PC ポート (Cisco Discovery Protocol (CDP): PC Port)
- Link Layer Discovery Protocol - Media Endpoint Discover (LLDP-MED) : スイッチ ポート (Link Layer Discovery Protocol - Media Endpoint Discover (LLDP-MED) : Switch Port)
- Link Layer Discovery Protocol (LLDP) : PC ポート (Link Layer Discovery Protocol (LLDP) : PC Port)
- IPv6 ロード サーバ (IPv6 Load Server)
- 802.1X 認証 (802.1x Authentication)
- スイッチ ポートのリモート設定 (Switch Port Remote Configuration)
- PC ポートのリモート設定 (PC Port Remote Configuration)

- 自動ポート同期 (Automatic Port Synchronization)
- SSH アクセス (SSH Access)

パラメータを設定するときは、更新する設定ごとに[共通設定の上書き (Override Common Settings)] チェックボックスを選択します。このボックスをチェックしないと、対応するパラメータ設定が有効になりません。3つの設定ウィンドウでパラメータを設定した場合、設定の優先順序は次のとおりです。

- [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウ (最も高い優先順位)
- [共通の電話プロファイルの設定 (Common Phone Profile Configuration)] ウィンドウ
- [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウ (最も低い優先順位)

## 社内ディレクトリとパーソナルディレクトリのセットアップ

Cisco Unified IP Phone のディレクトリメニューを押すと、いくつかのディレクトリにアクセスできます。このディレクトリには次のものがあります。

- 社内ディレクトリ：ユーザが、同僚の電話番号を調べることができます。  
この機能をサポートするには、社内ディレクトリを設定する必要があります。詳細については、[社内ディレクトリのセットアップ](#)、(31 ページ) を参照してください。
- パーソナルディレクトリ：ユーザが、一連の個人の番号を保存できます。  
この機能をサポートするには、パーソナルディレクトリを設定するためのソフトウェアをユーザに提供する必要があります。詳細については、[パーソナルディレクトリのセットアップ](#)、(32 ページ) を参照してください。

LDAP ディレクトリの設定が完了すると、Cisco Unified IP Phone の社内ディレクトリ サービスを使用して社内ディレクトリ内のユーザを検索できます。

## 社内ディレクトリのセットアップ

Cisco Unified Communications Manager では、Cisco Unified Communications Manager と連動する Cisco Unified Communications Manager アプリケーションのユーザの認証情報と認可情報を保存するために、Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) ディレクトリを使用しています。認証によって、システムに対するユーザのアクセス権が確立します。一方、許可は、ユーザが使用許可を持つテレフォニー リソース (特定の内線番号など) を指定するものです。

ディレクトリの詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager System Guide*』の「Understanding Directory」の章を参照してください。

これらの機能をインストールおよびセットアップするには、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』の「LDAP System Configuration」、「LDAP Directory Configuration」、および「LDAP Authentication Configuration」の各章を参照してください。

LDAPディレクトリの設定が完了すると、ユーザはCisco Unified IP Phoneの社内ディレクトリサービスを使用して、社内ディレクトリでユーザを検索できるようになります。

## パーソナルディレクトリのセットアップ

パーソナルディレクトリは、次の機能で構成されています。

- Personal Address Book (PAB; 個人アドレス帳)
- 個人ファストダイヤル (ファストダイヤル)
- アドレス帳同期化ツール (TABSync)

ユーザは、次の方法によってパーソナルディレクトリにアクセスできます。

- Web ブラウザから : Cisco Unified Communications Manager ユーザ オプション Web ページから PAB やファストダイヤル機能を利用できます。
- Cisco Unified IP Phone から : [ディレクトリ (Directories) ]>[パーソナルディレクトリ (Personal Directory) ]の順に選択して、電話機から PAB およびファストダイヤル機能にアクセスできます。
- Microsoft Windows アプリケーションから : TABSync ツールを使用して、PAB を Microsoft Windows Address Book (WAB) と同期化することができます。Microsoft Outlook Address Book (OAB) を使用するユーザは、まず OAB から Windows Address Book (WAB) にデータをインポートする必要があります。次に TabSync を使用して WAB をパーソナルディレクトリと同期化します。

Cisco Unified IP Phone Address Book Synchronizer を使用しているユーザが、自分に関するエンドユーザデータのみアクセスできるようにするには、Cisco Unified サービスアビリティで Cisco UXL Web Service をアクティブ化します。

パーソナルディレクトリを Web ブラウザから設定するには、ユーザが自分のユーザオプション Web ページにアクセスする必要があります。管理者は、ユーザに対して URL とログイン情報を提供する必要があります。

Microsoft Outlook と同期化するには、管理者から提供される TABSync ユーティリティをユーザがインストールする必要があります。詳細については、[Cisco Unified IP Phone Address Book Synchronizer の入手](#)および [Cisco Unified IP Phone Address Book Synchronizer の導入](#)を参照してください。



## 電話ボタンテンプレート

電話ボタンテンプレートを使用すると、電話ボタンに機能を割り当てることができます。Cisco Unified IP Phone 7906G および 7911G では、プライバシー機能 ([プライベート (Private)] ソフトキー) のみをテンプレートで設定できます。

テンプレートの変更は、可能な限り電話機をネットワークに登録する前に行ってください。この順序に従うと、登録の実行中、カスタマイズした電話ボタンテンプレート オプションに Cisco Unified Communications Manager からアクセスできます。

## 電話テンプレートの変更

Cisco Unified Communications Manager の [デバイスの設定 (Device Settings)] ページには、電話テンプレートが含まれています。

### 手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理で、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] を選択します。
- ステップ 2** 電話ボタンテンプレートを電話機に割り当てるには、Cisco Unified CM の管理の [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウにある [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] フィールドを使用します。  
詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』および『Cisco Unified Communications Manager System Guide』を参照してください。

## 個人アドレス帳またはファストダイヤルの電話ボタンテンプレート

電話ボタンテンプレートを変更して、サービス URL を回線ボタンに関連付けることができます。電話ボタンテンプレートを変更すると、ボタンを 1 回押すだけで PAB およびファストダイヤルにアクセスできます。電話ボタンテンプレートを変更する前に、PAB またはファストダイヤルを IP Phone サービスとして設定する必要があります。

### IP Phone サービスの PAB またはファストダイヤルのセットアップ

PAB またはファストダイヤルを IP Phone サービスとして設定するには、次の手順を実行します。

## 手順

- 
- ステップ 1** [デバイス (Device) ]>[デバイスの設定 (Device Settings) ]>[IP Phone サービス (Phone Services) ]  
を選択します。  
[IP Phone サービスの検索と一覧表示 (Find and List IP Phone Services) ] ウィンドウが表示されま  
す。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New) ] をクリックします。 [IP Phone サービスの設定 (IP Phone Services  
Configuration) ] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** 次の設定値を入力します。
- [サービス名 (Service Name) ] および [ASCII サービス名 (ASCII Service Name) ] : Personal  
Address Book と入力します。
  - [サービスの説明 (Service Description) ] : (オプション) サービスの説明を入力します。
  - [サービス URL (Service URL) ]  
PAB の場合は、次の URL を入力します。  
**http://<Unified CM-server-name>:8080/ccmpd/login.do?name=#DEVICENAME#&service=pab**  
ファストダイヤルの場合は、次の URL を入力します。  
**http://<Unified-CM-server-name>:8080/ccmpd/login.do?name=#DEVICENAME#&service=fd**
  - [セキュアサービス URL (Secure Service URL)]  
PAB の場合は、次の URL を入力します。  
**https://<Unified CM-server-name>:8443/ccmpd/login.do?name=#DEVICENAME#&service=pab**  
ファストダイヤルの場合は、次の URL を入力します。  
**https://<Unified-CM-server-name>:8443/ccmpd/login.do?name=#DEVICENAME#&service=fd**
  - [サービス カテゴリ (Service Category) ] : [XML サービス (XML Service) ] を選択します。
  - [サービス タイプ (Service Type) ] : [ディレクトリ (Directories) ] を選択します。
  - [有効 (Enable) ] : チェックボックスを選択します。
- ステップ 4** [保存 (Save) ] をクリックします。  
サービス パラメータは必要に応じて追加、更新、または削除できます。『Cisco Unified  
Communications Manager Administration Guide』の「IP Phone Service Parameters」を参照してくださ  
い。
- (注) サービス URL を変更した場合、IP Phone サービス パラメータを削除した場合、または  
ユーザの登録先の IP Phone サービス名を変更した場合は、[登録の更新 (Update  
Subscriptions) ] をクリックして、現在のすべての登録ユーザを更新し、変更を適用する  
必要があります。このボタンをクリックしなければ、ユーザがそのサービスに登録し  
て、正しい URL を再作成しなければなりません。
-

## PAB またはファストダイヤル用の電話ボタンテンプレートの変更

PAB またはファストダイヤル用の電話ボタンテンプレートを変更するには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM の管理で、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] を選択します。
- ステップ 2 [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 3 電話機のモデルを示します。
- ステップ 4 [コピー (Copy)] をクリックし、新しいテンプレートの名前を入力した後、[保存 (Save)] をクリックします。  
[電話ボタンテンプレートの設定 (Phone Button Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5 割り当てるボタンを確認して、機能が表示されるドロップダウンリストボックスから、その回線に関連付けられた [サービス URL (Service URL)] を選択します。
- ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックすると、サービス URL を使用した新しい電話ボタンテンプレートが作成されます。
- ステップ 7 [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択して、電話機の [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを開きます。
- ステップ 8 [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] ドロップダウンリストから、新しい電話ボタンテンプレートを選択します。
- ステップ 9 [保存 (Save)] をクリックして変更内容を保存してから、[設定の適用 (Apply Config)] をクリックして変更を実行します。  
これで電話機のユーザが、ユーザオプションページにアクセスできるようになり、電話機のボタンにサービスが関連付けられました。

IP Phone サービスの詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』の「IP Phone Services Configuration」の章を参照してください。回線ボタンの設定方法の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」の章の「Configuring Speed-Dial Buttons」の項を参照してください。

## ソフトキーテンプレート

Cisco Unified CM の管理を使用して、Cisco Unified IP Phone でサポートされているアプリケーションに関連付けられたソフトキーを管理できます。Cisco Unified Communications Manager では、2 種類のソフトキーテンプレート（標準と非標準）をサポートしています。標準ソフトキーテンプレートには、標準ユーザ (Standard User) および標準機能 (Standard Feature) が含まれます。

ソフトキーをサポートするアプリケーションには、標準ソフトキーテンプレートを1つ以上関連付けることができます。標準ソフトキーテンプレートを修正するには、テンプレートのコピーを作成し、新しい名前を付けて、そのコピーしたソフトキーテンプレートをアップデートします。非標準のソフトキーテンプレートも修正できます。

プログラム可能なボタンにすでに割り当てられている機能を除外し、最も一般的に使用される機能セットに限定した標準ソフトキーテンプレートを使用することを推奨します。このテンプレートを使用すると、電話機に一度に表示されるソフトキーの数が減り、ユーザが[次へ (more)]ソフトキーを押す必要がなくなります。詳細については、[電話ボタンテンプレート](#)、(33 ページ)を参照してください。

ソフトキーテンプレートを設定するには、Cisco Unified CM の管理で、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] を選択します。ソフトキーテンプレートを電話機に割り当てるには、Cisco Unified CM の管理の [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウにある [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] フィールドを使用します。詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』および『*Cisco Unified Communications Manager System Guide*』を参照してください。



(注) Cisco Unified IP Phone は、Cisco Unified CM の管理で設定可能なすべてのソフトキーをサポートしています。ただし、次のソフトキーは除きます。

- 保留
- 復帰

## デバイスから呼び出された録音を有効化

Cisco Unified Communications Manager で、デバイスから呼び出された録音機能を設定します。この機能を有効にするには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1 IP Phone のビルトインブリッジを [オン (On)] に設定します。
- ステップ 2 録音オプションを [選択的コール録音を有効 (Selective Call Recording Enabled)] に設定します。
- ステップ 3 適切な [録音プロファイル (Recording Profile)] を選択します。

## サービスのセットアップ

Cisco Unified IP Phone のサービス ボタンを押すと、Cisco Unified IP Phone サービスにアクセスできます。これらのサービスは、テキストと画像によるインタラクティブコンテンツを電話機に表示

するための XML アプリケーションを構成しています。サービスの例としては、映画の上映時刻、株式相場、天気予報などがあります。

ユーザがサービスにアクセスできるようにするには、前もって次の作業が必要です。

- 管理者が Cisco Unified CM の管理を使用して、使用可能なサービスを設定する必要があります。
- ユーザは、Cisco Unified CM の [ユーザ オプション (User Options)] を使用して、サービスに登録する必要があります。この Web ベース アプリケーションは、IP Phone のアプリケーションをエンドユーザが設定するための限定的なグラフィカルユーザインターフェイス (GUI) を提供します。

サービスを設定する前に、設定するサイトの URL アドレスをすべて入手し、ユーザが社内 IP テレフォニー ネットワークからこれらのサイトにアクセスできるかどうかを確認してください。

これらのサービスをセットアップするには、Cisco Unified CM の管理で、[機能 (Feature)] > [Cisco Unified IP Phone サービス (Cisco Unified IP Phone Services)] を選択します。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』および『Cisco Unified Communications Manager System Guide』を参照してください。

これらのサービスを設定した後、ユーザが Cisco Unified CM のユーザ オプション Web ページにアクセスできるかどうかを確認してください。このページでは、ユーザは設定済みのサービスを選択し、登録することができます。エンドユーザに提供する必要がある情報については、[社内のサポート Web サイト](#)を参照してください。

Cisco Unified IP Phone は、同時に最大 4 つの HTTP/HTTPS アクティブ クライアント接続および最大 4 つの HTTP/HTTPS アクティブ サーバ接続をサポートできます。HTTP/HTTPS サービスには、次のような例があります。

- エクステンション モビリティ
- ディレクトリ
- メッセージ

## Cisco Unified Communications Manager ユーザの追加

ユーザを Cisco Unified Communications Manager に追加すると、ユーザに関する情報 (ディレクトリ情報やパスワードなど) を表示および管理できるようになります。



(注)

Cisco Unified Communications Manager に統合されているディレクトリ サーバアプリケーションでパスワード有効期間と構文を設定することで、LDAP ディレクトリ ユーザのパスワードルールを管理できます。サポートされるディレクトリ サーバの詳細およびリストについては、[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_installation_guides_list.html) で入手できるマニュアル『Installing and Configuring the Cisco Customer Directory Configuration Plugin』を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager に追加されたユーザは、次のアクションを実行できます。

- Cisco Unified IP Phone から、社内ディレクトリや他のカスタマイズ済みディレクトリにアクセスする
- パーソナルディレクトリを作成する
- スピードダイヤルとコール転送の番号をセットアップする
- Cisco Unified IP Phone からアクセスできるサービスに登録する

次のいずれかの方法を使用して、Cisco Unified Communications Manager にユーザを追加できます。

- ユーザを 1 名ずつ追加するには、Cisco Unified CM の管理で、[ユーザ (User)] > [新規ユーザの追加 (Add a New User)] を選択します。
- ユーザを 1 名ずつ追加するには、Cisco Unified CM の管理で、[ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] を選択します。

ユーザの追加の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』を参照してください。ユーザ情報の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager System Guide*』を参照してください。

- ユーザを一括して追加するには、一括管理ツール (BAT) を使用します。この方法では、すべてのユーザに対して同一のデフォルトパスワードを設定することもできます。

詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration User Guide*』を参照してください。

## ユーザ オプション Web ページの管理

ユーザオプション Web ページでは、電話機のいくつかの機能や設定値をユーザがカスタマイズおよび制御できます。ユーザオプション Web ページの詳細については、『*Cisco Unified IP Phone 7906G and 7911G User Guide for Cisco Unified Communications Manager (SCCP and SIP)*』を参照してください。

## ユーザ オプション Web ページへのユーザ アクセス

ユーザがユーザオプション Web ページにアクセスできるようにするには、ユーザを標準 Cisco Unified Communications Manager エンドユーザグループに追加し、適切な電話機をユーザに関連付けておく必要があります。

ユーザには、必ずユーザオプション Web ページに関する次の情報を提供してください。

- アプリケーションにアクセスするために必要な URL。この URL は、次のとおりです。

**http://<server\_name>:<portnumber>/ccmuser/** (*server\_name* は Web サーバがインストールされているホストです)。

**https://<server\_name:portnumber>/ccmuser/** (*server\_name* は Web サーバがインストールされているホストです)。

- アプリケーションにアクセスするために必要なユーザ ID とデフォルト パスワード。

これらの設定値は、ユーザを Cisco Unified Communications Manager に追加したときに入力した値と同じです (Cisco Unified Communications Manager ユーザの追加, (37 ページ) を参照)。

詳細については、次の各項を参照してください。

- 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「User Group Configuration」の章
- 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「End User Configuration」の章
- 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Roles and User Groups」の章

## エンドユーザグループへのユーザの追加

ユーザを標準 Cisco Unified Communications Manager エンドユーザグループに追加するには、次の手順を実行します。

### 手順

- 
- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理で、[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザグループ (User Groups)] を選択します。  
[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 2** 適切な検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
  - ステップ 3** [標準 CCM エンドユーザ (Standard CCM End Users)] をクリックします。対象の標準 CCM エンドユーザについての [ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ページが表示されます。
  - ステップ 4** [グループにエンドユーザを追加 (Add End Users to Group)] をクリックします。[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 5** [ユーザの検索 (Find User)] ドロップダウンリストを使用して、追加するエンドユーザを探し、[検索 (Find)] をクリックします。  
検索条件に一致するエンドユーザのリストが表示されます。
  - ステップ 6** 表示されるレコードのリストで、このユーザグループに追加するユーザの横にあるチェックボックスをオンにします。リストが複数ページにわたる場合は、下部のリンクを使用して結果の続きを表示します。  
(注) 検索結果には、すでにユーザグループに属するエンドユーザは表示されません。
  - ステップ 7** [選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。
-

## ユーザへの電話機の関連付け

このユーザに適切な電話機を関連付けるには、次の手順を実行します。

### 手順

- 
- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理で、[ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] を選択します。  
[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 適切な検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 3** 表示されるレコードのリストで、ユーザのリンクをクリックします。
- ステップ 4** [デバイスの割り当て (Device Association)] をクリックします。  
[ユーザデバイス割り当て (User Device Association)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** 適切な検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 6** デバイスの左にあるボックスをオンにして、エンドユーザに割り当てるデバイスを選択します。
- ステップ 7** [選択/変更の保存 (Save Selected/Changes)] をクリックしてデバイスをエンドユーザに関連付けます。
- 

## ユーザオプション Web ページの表示のカスタマイズ

デフォルトでは、ユーザオプション Web ページのほとんどのオプションが表示されます。ただし、次のオプションは、システム管理者が Cisco Unified CM の管理で [エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] の設定値を使用して設定する必要があります。

- 呼出音設定の表示 (Show Ring Settings)
- 回線のテキストラベル設定の表示 (Show Line Text Label Settings)
- コール転送の表示 (Show Call Forwarding)



(注) この設定値は、サイトのすべてのユーザオプション Web ページに適用されます。

ユーザオプション Web ページに表示されるオプションを指定するには、次の手順を実行します。



## 手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理で、[システム (System)] > [エンタープライズ パラメータ (Enterprise Parameters)] を選択します。  
[エンタープライズ パラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [CCMUser パラメータ (CCMUser Parameters)] 領域で、各パラメータ値のドロップダウン リストから次のいずれかの値を選択し、パラメータをユーザ オプション Web ページに表示するかどうかを指定します。
- [はい (True)] : オプションをユーザ オプション Web ページに表示します ([呼出音の設定の表示 (Show Ring Settings)]、[回線のテキストラベルの設定の表示 (Show Line Text Label Settings)]、および[コール転送の表示 (Show Call Forwarding)] 以外はこれがデフォルト)。
  - [いいえ (False)] : オプションをユーザ オプション Web ページに表示しません。
  - [すべての設定を表示 (Show All Settings)] : コール転送のすべての設定をユーザ オプション Web ページに表示します (デフォルト)。
  - [すべての設定を非表示 (Hide All Settings)] : コール転送の設定をユーザ オプション Web ページに表示しません。
  - [すべてのコールの転送のみを表示 (Show Only Call Forward All)] : すべてのコールの転送の設定だけをユーザ オプション Web ページに表示します。

## Cisco Unified IP Phone での EnergyWise のセットアップ

消費電力を減らす場合、ご使用のシステムに EnergyWise コントローラ (たとえば、EnergyWise 機能が有効な Cisco スイッチ) が含まれていると、電話機をスリープ状態 (電源オフ) および復帰 (電源オン) に設定できます。

Cisco Unified CM の管理で、EnergyWise を有効にして、スリープ時間とウェイク時間の設定を行います。これらのパラメータは、電話機の表示設定パラメータと緊密に結びついています。

EnergyWise が有効になっていて、スリープ時間が設定されていると、電話機を設定時刻に復帰させるように、電話機からスイッチに要求が送信されます。この要求の受諾または拒否が、スイッチから戻ります。スイッチが要求を拒否した場合、またはスイッチが応答しない場合は、電話機はオフになりません。スイッチが要求を受諾すると、アイドル状態の電話機がスリープ状態となり、消費電力をあらかじめ決められたレベルに減らすことができます。アイドル状態になっていない電話機にはアイドルタイマーが設定され、タイマーの期限が切れると、電話機がスリープ状態になります。

スケジュールされているウェイク時間になると、システムは電話機の電力を元に戻して電話機を復帰させます。復帰の時刻よりも前に電話機を復帰させるには、スイッチから電話機の電源をオンにする必要があります。詳細については、各スイッチのマニュアルを参照してください。

次の表は、EnergyWise 設定を制御する、Cisco Unified CM の管理のフィールドを示しています。Cisco Unified CM の管理のこれらのフィールドを設定するには、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。[エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウおよび[共通の電話プロファイルの設定 (Common Phone Profile Configuration)] ウィンドウで、EnergyWise パラメータを設定することもできます。

表 3: EnergyWise の設定フィールド

フィールド	説明
Power Save Plus の有効化 (Enable Power Save Plus)	<p>電話機の電源をオフにする日のスケジュールを選択します。スケジュールを設定する日をクリックしたら、Ctrl キーを押しながら複数の日を選択します。</p> <p>デフォルトでは、どの日も選択されていません。</p> <p>[省電力を有効にする (Enable Power Save)] がオンになっていると、緊急 (e911) の問題について警告するメッセージを受け取ります。</p> <p><b>注意</b> Power Save Plus モード (以下、「モード」) が有効である間は、このモードに設定されたエンドポイントは、緊急コールでは無効で、インバウンドコールの受信ができません。このモードを選択することにより、次の条項に同意したものと見なされます。(i) モードが有効である間、緊急コールとコールの受信用の代替方法を責任を持って用意する必要があります。(ii) シスコはこのモードの選択に関して何の責任を負いません。このモードを有効にすることは、お客様の責任で行っていただきます。(iii) コール、発信、およびその他について、このモードを有効にした場合の影響をユーザに通知する必要があります。</p> <p>(注) Power Save Plus を無効にするには、[EnergyWise オーバーライドを許可 (Allow EnergyWise Overrides)] チェックボックスをオフにする必要があります。[Power Save Plus の有効化 (Enable Power Save Plus)] フィールドで、日数を選択しないまま [EnergyWise オーバーライドを許可 (Allow EnergyWise Overrides)] チェックボックスをオンにしたままにしておくと、Power Save Plus は無効になりません。</p>

フィールド	説明
電話機をオンにする時刻 (Phone On Time)	<p>[Power Save Plus の有効化 (Enable Power Save Plus)] フィールドで選択した日について、電話機の電源を自動的にオンにする時刻を決定します。</p> <p>このフィールドには、24時間形式で入力します (00:00 は午前 0 時)。</p> <p>たとえば、午前 7 時 (0700) に自動的に電話機の電源をオンにする場合は、7:00 と入力します。午後 2 時 (1400) に電話機の電源をオンにするには、14:00 と入力します。</p> <p>デフォルト値はブランクで、これは 00:00 を意味します。</p>
電話機をオフにする時刻 (Phone Off Time)	<p>[Power Save Plus の有効化 (Enable Power Save Plus)] フィールドで選択した日について、電話機の電源をオフにする時刻。</p> <p>[電話機をオンにする時刻 (Phone On Time)] フィールドと [電話機をオフにする時刻 (Phone Off Time)] フィールドに同じ値が含まれている場合、電話機はオフになりません。</p> <p>このフィールドには、24時間形式で入力します (00:00 は午前 0 時)。</p> <p>たとえば、午前 7 時 (0700) に自動的に電話機の電源をオフにする場合は、7:00 と入力します。午後 2 時 (1400) に電話機の電源をオフにするには、14:00 と入力します。</p> <p>デフォルト値はブランクで、これは 00:00 を意味します。</p>
電話機をオフにするアイドルタイムアウト (Phone Off Idle Timeout)	<p>電話機の電源をオフにする前に、電話機をアイドル状態にしておく必要がある時間の長さ。</p> <p>このフィールドの範囲は 20 ~ 1440 分です。</p> <p>デフォルト値は 60 分です。</p>

フィールド	説明
音声アラートを有効にする (Enable Audio Alert)	<p>これを有効にすると、[電話機をオフにする時刻 (Phone Off Time)] で指定した時刻の 10 分前に電話機で音声アラートの再生が開始されます。</p> <p>音声アラートは、電話機の呼出音を使用します。この音は、10 分間のアラート期間中の特定期間、短く再生されます。アラートの呼出音は、ユーザが指定した音声レベルで再生されます。音声アラートのスケジュールは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 電源オフの 10 分前に、呼出音が 4 回再生されます。</li> <li>• 電源オフの 7 分前に、呼出音が 4 回再生されます。</li> <li>• 電源オフの 4 分前に、呼出音が 4 回再生されます。</li> <li>• 電源オフの 30 秒前に、呼出音は、15 回再生されるか、電話機の電源がオフになるまで再生されます。</li> </ul> <p>このチェックボックスが表示されるのは、[Power Save Plus の有効化 (Enable Power Save Plus)] リストボックスで 1 日以上が選択されている場合だけです。</p>
EnergyWise ドメイン (EnergyWise Domain)	その電話機が含まれる EnergyWise ドメイン。127 文字まで指定できます。
EnergyWise シークレット (EnergyWise secret)	<p>EnergyWise ドメイン内でエンドポイントとの通信に使用するセキュリティの秘密パスワード。</p> <p>127 文字まで指定できます。</p>

フィールド	説明
EnergyWise オーバーライドを許可 (Allow EnergyWise Overrides)	<p>このチェックボックスにより、電話機に電源レベルの更新を送信するための EnergyWise ドメイン コントローラのポリシーを許可するかどうかを決定します。次の条件が適用されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>電話機が完全な電力節約モードで、レベルがスタンバイレベルに設定されている場合、その電話機はアイドル状態になると電力節約モードになり、Cisco Unified CM でスケジュールされた次の電力レベル変更まで、またはユーザの介入があるまで、その状態のままになります。</li> <li>電話機が電力節約またはフルパワーの状態で、レベルが非オペレーショナルレベルに設定されている場合、電話機はアイドル状態になると電源オフになり、スイッチが電力を再供給するまで、またはユーザが電話機を復帰させるまで電源オフのままになります。</li> </ol> <p>たとえば、[電話機をオフにする時刻 (Phone Off Time)] が 22:00 (午後 10 時) に設定されていると仮定すると、[電話機をオンにする時刻 (Phone On Time)] フィールドの値は 06:00 (午前 6 時) となり、[Power Save Plus の有効化 (Enable Power Save Plus)] では 1 日以上が選択されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>EnergyWise が 20:00 (午後 8 時) に電話機をオフにするように指示すると、この指示は、午前 6 時に設定された [電話機をオンにする時刻 (Phone On Time)] まで有効となります (電話機ユーザによる介入が発生しないと仮定した場合)。</li> <li>午前 6 時になると、電話機はオンとなり、Cisco Unified CM の管理の設定から電力レベルの変更の受信を再開します。</li> <li>電力レベルを電話機で再び変更するには、EnergyWise は電力レベル変更コマンドを新たに再発行する必要があります。</li> </ul> <p>(注) Power Save Plus を無効にするには、[EnergyWise オーバーライドを許可 (Allow EnergyWise Overrides)] チェックボックスをオフにする必要があります。[Power Save Plus の有効化 (Enable Power Save Plus)] フィールドで、日数を選択しないまま [EnergyWise オーバーライドを許可 (Allow EnergyWise Overrides)] チェックボックスをオンにしたままにしておくと、Power Save Plus は無効になりません。</p>

## UCR 2008 のセットアップ

UCR 2008 をサポートするパラメータは、Cisco Unified CM の管理にあります。次の表では、パラメータについて説明し、設定を変更する手順を示します。

表 4: UCR 2008 のパラメータの場所

パラメータ	管理パス	手順
FIPS モード (FIPS Mode)	[デバイス (Device) ]>[デバイスの設定 (Device Settings) ]>[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile) ]	[共通の電話プロファイルの設定 (Common Phone Profile Configuration) ]ウィンドウでの UCR 2008 のセットアップ、(48 ページ)
	[システム (System) ]>[エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration) ]	[エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration) ]ウィンドウでの UCR 2008 のセットアップ、(48 ページ)
SSH アクセス (SSH Access)	[デバイス (Device) ]>[電話 (Phone) ]	[電話の設定 (Phone Configuration) ]ウィンドウでの UCR 2008 のセットアップ、(47 ページ)
	[デバイス (Device) ]>[デバイスの設定 (Device Settings) ][共通の電話プロファイル (Common Phone Profile) ]	[共通の電話プロファイルの設定 (Common Phone Profile Configuration) ]ウィンドウでの UCR 2008 のセットアップ、(48 ページ)
Web アクセス (Web Access)	[デバイス (Device) ]>[電話 (Phone) ]	[電話の設定 (Phone Configuration) ]ウィンドウでの UCR 2008 のセットアップ、(47 ページ)  Web ページへのアクセスの制御

パラメータ	管理パス	手順
HTTPS サーバ (HTTPS Server)	[デバイス (Device) ]>[電話 (Phone) ]	[電話の設定 (Phone Configuration) ]ウィンドウでの UCR 2008 のセットアップ, (47 ページ)
	[システム (System) ]>[エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration) ]	[エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration) ]ウィンドウでの UCR 2008 のセットアップ, (48 ページ)
80 ビット SRTCP (80-bit SRTCP)	[デバイス (Device) ]>[デバイスの設定 (Device Settings) ]>[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile) ]	[共通の電話プロファイルの設定 (Common Phone Profile Configuration) ]ウィンドウでの UCR 2008 のセットアップ, (48 ページ)
	[システム (System) ]>[エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration) ]	[エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration) ]ウィンドウでの UCR 2008 のセットアップ, (48 ページ)
IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)	[デバイス (Device) ]>[デバイスの設定 (Device Settings) ]>[共通デバイス設定 (Common Device Configuration) ]	ネットワークの設定メニュー
シグナリング用の IP アドレッシングモード設定 (IP Addressing Mode Preference for Signaling)	[デバイス (Device) ]>[デバイスの設定 (Device Settings) ]>[共通デバイス設定 (Common Device Configuration) ]	ネットワークの設定メニュー

## [電話の設定 (Phone Configuration) ]ウィンドウでの UCR 2008 のセットアップ

次の手順を使用して、次のパラメータを設定します。

- SSH アクセス (SSH Access)
- Web アクセス (Web Access)
- HTTPS サーバ (HTTPS Server)

## 手順

- 
- ステップ 1 [デバイス (Device) ] > [電話 (Phone) ] を選択します。
  - ステップ 2 [SSH アクセス (SSH Access) ] パラメータを [無効 (Disabled) ] に設定します。
  - ステップ 3 [Web アクセス (Web Access) ] パラメータを [無効 (Disabled) ] に設定します。
  - ステップ 4 [HTTPS サービス (HTTPS Service) ] パラメータを [HTTPS のみ (HTTPS only) ] に設定します。
  - ステップ 5 [保存 (Save) ] をクリックします。
- 

## [共通の電話プロフィールの設定 (CommonPhoneProfileConfiguration) ] ウィンドウでの UCR 2008 のセットアップ

次の手順を使用して、次のパラメータを設定します。

- FIPS モード (FIPS Mode)
- SSH アクセス (SSH Access)
- 80 ビット SRTCP (80-bit SRTCP)

## 手順

- 
- ステップ 1 [デバイス (Device) ] > [デバイスの設定 (Device Settings) ] > [共通の電話プロフィール (Common Phone Profile) ] を選択します。
  - ステップ 2 [FIPS モード (FIPS Mode) ] パラメータを [有効 (Enabled) ] に設定します。
  - ステップ 3 [SSH アクセス (SSH Access) ] パラメータを [無効 (Disabled) ] に設定します。
  - ステップ 4 [80 ビット SRTCP (80-bit SRTCP) ] パラメータを [有効 (Enabled) ] に設定します。
  - ステップ 5 [保存 (Save) ] をクリックします。
- 

## [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration) ] ウィ ンドウでの UCR 2008 のセットアップ

次の手順を使用して、次のパラメータを設定します。

- FIPS モード (FIPS Mode)
- HTTPS サーバ (HTTPS Server)
- 80 ビット SRTCP (80-bit SRTCP)



## 手順

- 
- ステップ 1 [システム (System) ]>[エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration) ]を選択します。
  - ステップ 2 [FIPS モード (FIPS Mode) ]パラメータを [有効 (Enabled) ]に設定します。
  - ステップ 3 [HTTPS サーバ (HTTPS Server) ]パラメータを [HTTPS のみ (HTTPS only) ]に設定します。
  - ステップ 4 [80 ビット SRTCP (80-bit SRTCP) ]パラメータを [有効 (Enabled) ]に設定します。
  - ステップ 5 [保存 (Save) ]をクリックします。
-

